

平成 29 年度 第 1 回学校協議会記録

1. 学校長挨拶

4 月から本校に着任。これまでの経歴など簡単に自己紹介。

2. 委員委嘱

3. 委員自己紹介(順不同)

A：大学職員、元府立高校校長、平野高校歴代校長との交流もある。

B：平野区在住。元府立高校校長・教育センターにも勤務、

C：障がい者福祉サービスの施設長、協議員 2 期目。

D：松原市内小学校校長。

E：松原市内中学校校長、今年度委嘱。

F：PTA 会長。

4. 会長選出

A 氏に決定。

5. 本校の現状と課題

- ・2 年連続で定員割れ。来年度は絶対定員を満たすように広報していく。
- ・H28 年度評価。転退学者数減、進学実績目標以上、懲戒件数減、多方面で成果が出ている。
- ・H29 年度の計画。今年度新しい項目は「アクティブラーニング」に対応する授業改善、学習評価の工夫（観点別評価を導入）、SC/支援コを含めた校内支援体制の構築、情報リテラシーの育成、教員自ら学んでいく学校を意識的に作ることなど。
- ・「分かる授業」をめざすことにより、転退学者数の減少につなげたい。
- ・「働き方改革」時間外労働の縮減。

6. 協議

広報、1 年主任、2 年主任、3 年主任、教務、進路、生徒会、生徒指導、総務、保健、各部署より現状報告と今年度の課題・目標について説明。

協議員：生徒会執行部の現状について教えてほしい。

→執行部は、3 年 1 人、2 年 5 人、1 年 2 人で活動中。「東日本大震災ひまわりプロジェクト」として、ひまわりの種を近隣の小中学校に配布した。韓国テソニル高校との国際交流では「日本の遊び」をとりいれた交流を行う予定。体育大会などの行事の進行なども行っている。

協議員：学年の報告にもあったが、「リーダーの育成」を意識的に行っているのが良い。

協議員：服装の問題について。学校に関りの少ない人は、一面的な見方をする。地域での評価は、受験生の確保にもつながる。私学の例だが、言葉づかい、服装、マナーの指導を全職員で徹底し、地域清掃（商店街など）等も行い地域貢献をしている。その結果、地域からの苦情が激減し、受験者数も増加した。大変だが、粘り強く指導することが地域の評価につながる。参考にしてほしい。

教員：高校選びの段階で、私学と公立を比較して、公立の方が規律に関して甘いと思込む生徒が多い現状がある。

教員：私学の服装指導に懲戒はある？

協議員：懲戒はないが、呼び出し指導などは行い、厳しい。公立とは違うかもしれない。

協議員：①4月から、新しい事業所に若い平野高校卒業生が入職した（中途採用）。利用者さんとの関わり方について「やさしい」印象。平野高校においては、「人間力」と「豊かな心」の育成を継続して行ってほしい。
②地域との連携を継続してほしい。書道部や軽音楽部のパフォーマンスを地域の行事で目にする嬉しくなり、応援したくなる。

協議員：2年連続定員割れについて。学習・生活に課題のある生徒を平野高校で育ててもらい、中学校としては感謝している。平野の良さを直接生徒や保護者に伝えるためには、中学校の教員がもっと高校のことを知るべきだと考える。

教員：学校の「内」にいと平野高校の良い変化を実感できるが「外」ではどうか。その温度差があるように思う。

協議員：中学校にも新しい職員が入ってきている。新任教員は、昔からのつながりを知らず、進路指導をする。中学校としては、これまでのつながりをまず教員に受け継いでいくようにする。

教員：「やさしい」は懇談等でも生徒の長所としてよくあげられるキーワード。しかし、身内に「やさしい」のは当たり前。「やさしい」生徒は授業中に周りに迷惑をかけない、短いスカートで学校の評価を下げることはしない。「自分勝手」を指導したい。

協議員：「自己申告書」は、生徒と教員で何度もチェックした上で提出に至る。

教員：広報の戦略として「担当者制度」がある。例えば、羽曳野担当は「〇〇」先生とすれば、中学校側も「ああ、〇〇先生か」という信頼関係が構築できる。私学は広報資金が潤沢。公立は、そうはいかない。「平野に行きたい」と目標を持った生徒もいる（特に女子）。似たような境遇の他校と比べ、本校は雰囲気非常に安定している。広報によって、平野に「来たい」と思う生徒が増えてほしい。

協議員：小中学校の様子。今、小学校低学年から、遅刻・欠席が多い児童がいる。背景には保護者の養育体制に問題が見える。そのまま、→高学年 →中学校 →高校と流れいく。また、「発達障がい」の子どもの増加。対応を間違ると、「学級崩壊」招きかねない。「やさしい（インクルーシブ）授業づくり」が大切。授業の中身に重点をおく教員のクラスは落ち着く。授業改善が重要。小学校と高校で、お互いの授業見学のチャンスがあれば是非協力したい。

協議員：PTAで、連絡が回りにくい原因は何かを考えてみた。子どもと保護者が、話すチャンスが少ないのではないかと。PTAの役員をやっていたら、学校の様子が分かり、子どもとの話題が出来る。「平野高校の良さ」を保護者に発信することは、子どもと保護者の話題づくりにつながり、学校と家庭の良い関係作りにもつながる。

7. まとめ その他

校長：今後も、「人間力の育成」を大切にしていきたい。中学の先生方にも、本校の取り組みが分かってもらえるように工夫することが大切だと感じた。小中学校でも高校と同じような課題をテーマにして、日々の改善を行っていることもわかった。貴重なご意見をありがとうございました。

教頭：次回は10月18日（水）の予定です。9月中旬に封書にて連絡します。